

「學士會」会報に、出会いと交友を：追悼大林宣彦 監督と尾道（上）：哲学者荒木正見さん執筆

幾野，伝

<https://hdl.handle.net/2324/4371085>

出版情報：尾道新聞，pp.2-2，2020-02-02. 尾道新聞社
バージョン：
権利関係：

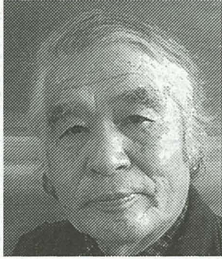


「學士會」会報に、出会いと交友を

追悼 大林宣彦監督と尾道①

哲学者 荒木正見さん執筆

哲学者で元九州大学哲学学会会長、尾道学研究会顧問の荒木正見さん（福岡市）が、一般社団法人學士會（東京）が発行する最新版の会報に「追悼 大林宣彦監督と尾道」を執筆しました。學士會は1886年の創立。旧帝国大学の北海道大、東北大、東京大、名古屋大、京都大、大阪大、九州大の卒業生や学生、教員など5万人の会員が所属する学術的団体です。大林監督の思考と作品をアカデミックに紐解いたこの一文を、本紙の購読者でもある荒木さんと學士會の了解のもと上・下2回で紹介します。



二〇二〇年四月二〇日夜、多くの秀作映画を世に出して下さった大林宣彦監督が亡くなられた。二〇一六年九月一九日、佐賀県唐津市での『花筐／HANAGATAMI』（二〇一七年）の撮影現場にご挨拶に伺った際、お会いするなり「実は

肺癌ステージ4になつてしまつて。」とおつしやりつつも、精力的にお体を動かしての感動的な演技指導を見せて頂き、その後のご活躍につけても死という言葉は浮かばなかつた。

ご逝去の報を知り、まんじりともできず翌朝を迎え、茫然と過ごしていた午前、郵便が届いた。送り元はなんと大林監督のオフィスの。内容は一冊の書籍。大林宣彦著『最後の講義 完全版 映画と

はフィロソフィー』は「主婦の友社、二〇二〇年」ご逝去から半日経つて送られてきた「映画とはフィロソフィー」という副題のこの書。発送時点では大林宣彦監督は生存されていた。タイムミン

グといい、テーマといい、運命としか思えない。実はこのテーマは監督とお会いするたびに議論していたことである。それらの思い出を辿りつつ大林宣彦監督の一端を振り返ってみたい。

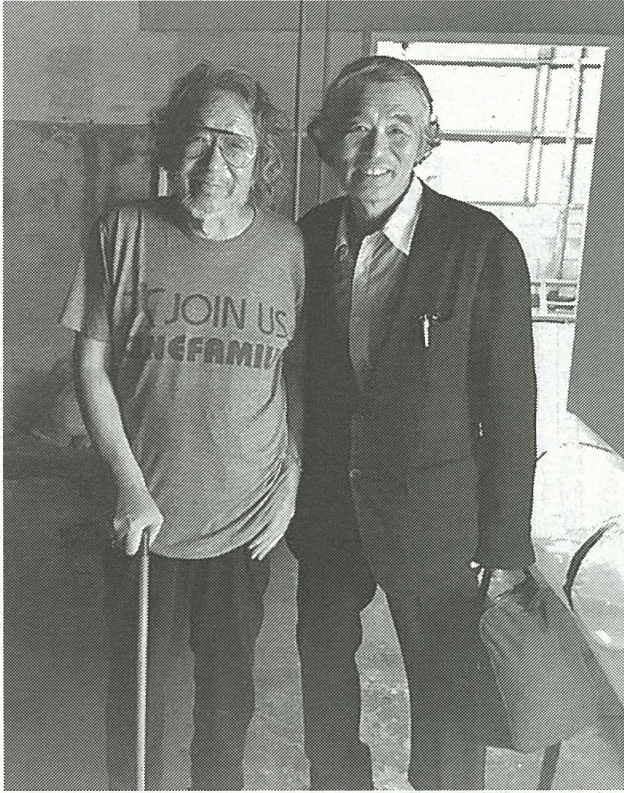
監督と初めてお話しする機会を得たのは三十数年前、当時勤務していた下関の大学の学園祭で講演して頂くに当たつて教員の誰か接待をしないかと問われて一番に手を挙げたことに始まる。航空機が苦手な監督を新幹線小倉駅にお迎えしてタクシーで関門橋を渡りながら自己紹介し、「実は『時をかける少女』（一九八三年・原田知世主演）のロケ地の一つは竹原市内の私の母の実家です。」とお話ししたら、すぐに分厚い掌での握手となつた。専門は哲学だとお話したところとでも興味を示されたので、さらに、西田幾多郎

に做つた哲学的場所論と、その応用としての場所の心理的意味などを研究している由を述べたら、「時をかける少女」からは何がわかりますか。」とお尋ね。物語の展開が画面右側、上手を中心に展開する確率が高いので無意識ながら、論理的な構成をされるタイプでしようか。」とお答えした。ここからすべてが始まつた。

西田幾多郎における「場所」は、唯一絶対無限な全体的存在そのものであり、その全体と個の関係は「場所を限定する」とされるように、唯一絶対無限な存在が、自分自身を限定して個を生み、個は個として展開すること全体を豊かにする、と理解される。筆者はこれに対してこの全

体と場所の関係構造を、限定的な場所に用できないかと、研究対象となる場所を模索していた。後に、『尾道という場所論』——志賀直哉・小林和作・大林宣彦の風景——（中川書店・一九九三年）を上梓し、『尾道学』として尾道を研究対象の主要な場所に据えるきっかけになつたのが、大林監督との出会いであつた。

しかし、大林監督と筆者とは、尾道という具体的な場所と絶対的普遍的な場所のベクトルは逆である。筆者は哲学という学問の性格上、普遍から入つて尾道という具体的な場所に行きついた。しかし大林監督は、故郷・尾道を愛し、尾道を大切に思うからこそ、尾道の映像の背後にある普遍を見つめなければならぬとおっしゃつていた。芸術とはまさにそうだが、尾道を徹底的に知り尽くし、尾道の発展に僅かでも貢献したいと願つてゐる筆者としては少し寂しい思いもあり、尾道シリーズを過ぎて各地で撮影を始められた監督にそのことを申し上げたら、監督は眩しい



『花筐／HANAGATAMI』の撮影現場で(2016年9月)

The last Lecture
Movie is "cinema"

最後の講義

映画とは「フィロソフィー」

人生「最後の講義」に、あなたは何を語りたいですか？
各界の偉人が登場した話題の書籍
「最後の講義」は、未だ未だ分るべき完全資料化！
これが最後という覚悟は常にあった！
大林宣彦

監督から贈られてきた著書「最後の講義」

荒木さん著の「尾道という場所論」(1993年)

尾道学必携の書
謎めいた尾道の魅力を
フィールドワーク・学的考察から
平易に解き明かす

中川書店